財政再建二年目を迎え
荒尾市32年度予算成る
政治局、市民の福祉重点に討議

荒尾市第二回定例会議は、三月十一日より十八日間の会期の中で、決算・予算その他議案請願等四十一件の審議を行った。特に三十二年度予算は一般会計、特別会計ともに荒尾の現行財政上から見て財政再建二年目の重要な段階と、病院、交通、水道事業の現況からみて、その発展と運営は地方政治における保守対革新の政策の闘いであるので、政治局としては、三十二年度予算を通じ住民福祉のためにどのように奉仕すべきかを検討し、基本的にまた具体的にその対策を討議した。

一、編成方針として

1　消極的経費は財政再建計画の基本方針に基づき節減を主張する。

2　投資的経費については一般財源充当可能額との関係もあるが事業の重要性、緩急度を考慮し積極政策を推進する。

二、予算の効率的使用について

1　地方自治の財政を予算上の数字によってのみ論ずるものでなく、それは予算執行に当って使用される個々の事務及び事業の内容が、如何に効果的に運営使用されているかも検討する。

2　たとえば、各事業の緩急の問題等

3　外郭団体への寄付、負担金等がその目的を達するに役立っているかどうか等を研究しなくてはならない。

三、具体的問題の取扱い

1　教育、労働、社会、失対等の問題については、荒地評を中心として教組、職組、自労と話合いその要望、意見を充分取上げ予算編成に努力をする。

2　農漁村及び商工業対策としては、その振興策を中心に、革新議員団会議また与党会議の中で、それぞれの出身議員と意見の交換を行い、その問題を階級的に取上げることとし、以上の如き諸点を確認し予算編成に望んだものである。

決定した三十二年度予算の概要

一般会計
総予算　三四、〇八一六、七八三円

特別会計
交通事業　三、九六一、〇〇〇円
水道事業　二、一六四五、六七九円
公益質屋　三九七七、六六九円

消費的経費は節減出来たか

荒尾市の物件費は類似都市に比較すると、その約五五%程度で（再建計画要綱による）市として相当節減に努力している。これは自頭政治局員が主張していることでもある。消費的経費については、果して節減の実績がどれだけ出ているか例を旅費交際費（議会、市役所）を隔年別に調べれば別表の通りとなる。

	二十七年度使用額	二十九年度使用額	三十二年度予算額
旅費	市役所	一八〇万円	一五八万二千円	一一〇万円
	市議会	一三四万五千円	一一六万八千円	九〇万円
交際費	市役所	一八〇万円	一五八万三千円	一三一万円
	市議会	九五万円	七九万円	五五万円

失業対策事業

五、一五四万三千円計上。その内訳は三、四二〇万九千円が国庫補助によるもので、市負担金一、七三三万四千円である。昨年同様一日平均、就労わく四六〇名計上してあるが、昨年実績から見ると、市五〇〇名、県一五〇名計六五〇名になる。これに比較し日雇労務者の現況は八七六名で運動公園、被害者組合の組織の強化を計り、タイアップし強力なる陳いを展開するよう働きかける必要がある。

社会及労働施設について

生活保護者は年を追うて増加し今年度は昨年予算より七〇〇万円増加。四、〇〇〇万円予算を計上した。しかし運営面における認定基準の適正等に重点をおき、少くとも市民の疑惑をまねかざるよう注意をすべきである。

住宅問題

今年は低額所得者の住宅不足にかんがみ、昨年度より第二種住宅を十戸多くし、第一種十戸第二種二十戸計画。建設費は昨年より二六五万八千円増加、八四八万四千円に敷地買収費として五〇万円計上

【写真は荒尾市長設計の市営住宅】

産業経済費

農林部門は昨年度より農業センターを設定し、一方技術の実地指導の重点施政の他に今年度は予算を新たに六〇万円計上し、新農山漁村建設綜合対策を樹立した。

商工部門

昨年度に引続き商店経営の改善指導に要する経費の他、新たに海水浴場施設とし、シャワー設置用その他約五〇万円計上。また商工振興助成金は昨年度より二〇万円増加し五〇万円計上した。

労働會館建設

本年度予算額九四七万円の内七九〇万円は労働会館建設費で昨年度五〇万円敷地費を計上した。内訳は県一五〇万円、経営者一五〇万円、荒地評二四〇万円、市負担敷地料を含み三〇〇万円、今秋完成を目途として敷地折衝中である。

公債費は是か

予算計上額約四千五百万円、内訳は約二千万円は、再建債元利償還金で、一時借入金利子一六万円の残額二、三一〇余万円が普通交債償還金である。

この数字をみても判るように公債費は総予算の一三、二%に相当する多額の支出である。もちろん地方自治体の赤字の原因は政府の政治の貧困にもとづくものであることは周知の事実である。

この赤字の重圧のもとに呻吟する地方自治体は再建団体の指定をうけても、自主再建でもともにあらゆる面で行政水準の切り下げと住民生活の大きな犠牲によってこの苦境打開に必死の努力を続けているのが現実である。

失対事業、学校建設、水道工事等すべての事業をするためには、皆起債という政府からの借金をしてやらなくては出来ない。事業をすることによって政府に恩を着ながら借金をふやしていくのが地方自治体の姿である。この公債費はこのまま進めば年間全国地方自治体税収入総額とトントンとなる事態も予想され、三十二年はその額は七七八億というばう大な数字が政府からの借金となることである。

政府はこの対策をすみやかに樹立し、過迫危機にある地方財政を立直す責任を認識すべきである。例えば義務教育費、生活保護費、失業対策費などの全額国庫負担をするとか、地方交付税の税率を引上げるとかを実施し、公債問題の解決を促進すべきである。またこの公債の問題は我々政治局の重要なる闘争目標でもある。

交通事業

市民の福利事業であると同時に企業法にもとづく企業会計でもあり市民へのサービスと独立採算制を堅持し業務の刷新を図ったがなお抜本的検討の段階である。

まず自動車事業路線の拡張、老朽車の切換に努力し今年度は早速新に六四〇万円の起債を起し新車二台購入、合理的経営と市民へのサービスに努め収支のバランスの面も努力すべきである。

電気鉄道事業は施設の使用料を毎年財務局に一二五万九千円支払っているがこれを大蔵省に折衝する等して根本的対策を検討する。

水道事業

新規布設中央区の旧水道の取換え大牟田市水の譲受による、礎山線その他新設改良による充実を図りその結果使用料は年額三三〇余万円の収入が七八〇万円の増収見込となり、なお事業に充当するため一千万円の起債を考え、又八幡地区牛水地域には簡易水道布設の目的のため今期は調査費用を計上した。

病院特別會計

昨年度は給食室の改築その他施設の充実、健保法の一部改悪のために二〇〇万円の赤字を見た。今期は人事の刷新を図り市民に愛され患者に信頼される病院とし患者の吸収につとめ収支のバランスを図り内容の改善をすべきであることを確認した。

土屋、豫算で大見得
皮肉・同時発表の不正事件

一般会計二六四億七、二〇〇万円特別会計二〇億三一三万円にのぼる三十二年度当初予算案ほか七〇議案を審議する三月定例県議会は三月二日に開会された。

この日登壇した土屋知事は、当面する県財政事情と新年度の予算編成方針について、大要次のように説明した。

産業界の好転にともない法人事業税、法人県民税などの増収で三十一年度より一五億二、二〇〇万円の税増収を見込んだが、この反面交付税が三十一年度より四億六、三〇〇万円減ることが見込まれるので、ここ二カ年間努力してきた、財政健全化のための施策をなお当分継続せねばならない。予算編成に当っては、本県の振興と県民の福祉向上を第一義として考慮した。

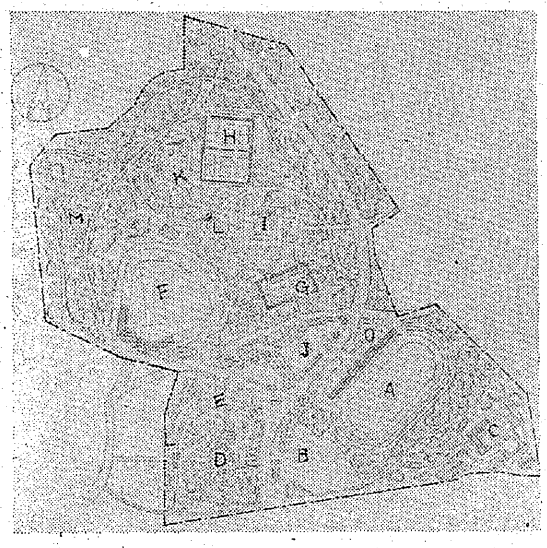
と大見得を切ったまでは良かったが、この予算県議会の終る直前発表された一億円の公金不正流用事件は、土屋知事のいう「県民福祉向上」の言葉の奥にかくされた実態であったことは皮肉であった。

福岡県32年度当初予算　264億7200万円
（昭和31年度の当初予算　227億8200万円より36億9000万円増加されています）

32年度において新規計上されたもの

南米移民促進対策	1000万円
世帯更生資金貸付金	3000万円
母子資金貸付金	1500万円
失業対策	7億1000万円
農業試験場整備拡充	2300万円
工業試験場拡充整備	1500万円
公共事業費	20億円
老朽校舎改善	3億4300万円

荒尾運動公園計画圖



総面積　85,000坪

A　陸上競技場
B　広場
C　水泳場
D　野外劇場
E　芝生苑地
F　野球場
G　花壇
H　庭球場（練習用）
I　〃　（試合用）
J　児童遊園
K　苗圃
L　パーゴラ
M　休憩所
O　管理事務所

三十二年一般会計歳入歳出予算

	歳入		%	歳出		%
1	市税	147,864,009	403,85	議会費	10,245,558	30,06
2	地方交付税	55,000,000	161,38	市役所費	74,746,783	219,30
3	公企業及び財産収入	596,511	1,75	消防費	10,306,787	30,41
				土木費	74,148,668	217,56
4	分担金及び負担金	5,570,851	16,35	教育費	35,986,019	105,59
5	使用料及び手数料	8,087,817	23,73	社会及び労働施設費	56,783,568	166,61
6	国庫支出金	91,376,041	268,11	保健衛生費	5,227,257	15,34
7	県支出金	3,279,869	9,62	産業経済費	6,273,583	18,41
8	支付入越収金	—	—	財産費	9,474,273	27,80
9	寄繰入金	—	—	統計調査費	234,440	0,69
10	繰越金	—	—	選挙費	1,564,231	4,60
11	雑収入	14,541,682	42,67	公債費	44,963,152	131,93
12	市債	14,500,000	42,54	諸支出金	9,720,219	28,52
				予備費	1,084,672	3,18
	計	340,816,783	100,00	計	340,816,783	100,00

別表予算書を参照しながら三十二年度の荒尾市政の方針を説明し又特に昨年と変つた面、政治局が取上げた問題等を中心に、例をあげてみたいと思う。